

問 題 J Aの広報活動に関する説明のうち、最も適切なものはどれか。次の①～③のなかから一つ選びなさい。

- ① 広報とは組織のコミュニケーション活動のことであり、J Aでは教育活動と密接な関係のもとにすすめられている。
- ② J Aの組織内広報は、役員や職員を対象として、おもに協同意識の高揚と組合結集を強めるためのものである。
- ③ J Aの対外広報は、組合員を対象として、農業とJ Aの役割についての理解を深めるために行うものである。

(24年度・全国統一初級・J A基礎)

1 **解 答** ① (難易度：易)

2 **解 説** 広報活動は、広い意味で教
3 育活動の一環であり、J Aグループの
4 なかではJ A事業の基礎となる活動と
5 して位置づけられ、「教育・広報活動」
6 と総称されている。

7 具体的には、各種の広報媒体、たと
8 えば機関紙、有線放送、映画、新聞、
9 雑誌、テレビ、ラジオ、催し物などを
10 通じて、J A運動の正しい認識と理解
11 をもつように働きかけ、意思疎通をは
12 かっていく活動のことをいう。

13 J Aの広報活動は、組織内広報と対
14 外広報の2つからなる。

15 組織内広報は、組合員や役職員を対
16 象として、おもに協同意識の高揚と組
17 合結集を強めるために行われる。その
18 手段として、J A段階では「J Aだよ
19 り」などの活字媒体やホームページ、
20 ケーブルテレビ、有線放送電話などが
21 あり、連合会段階では『日本農業新聞』
22 や『家の光』などが刊行されている。
23 また、J Aグループの役職員を対象と
24 して、J A全中から機関誌『月刊J A』

25 も発行されている。
26 一方、対外広報は、国民一般を対象
27 とし、農業とJAの役割についての理
28 解を深めるために行われる。JAグル
29 ープの事業と組織の影響力が地域経済、
30 国民経済、さらには国際経済のなかで
31 高まるとともに、あるいはまた、これ
32 らから強い影響を受けるようになるに
33 したがって、JAの対外広報の重要性
34 はいちだんと高まっている。この対外
35 広報は、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、
36 インターネットなどのマスコミ媒体を
37 通じて、さらにはまた、日常的な事業
38 活動の利用や見学会、催し物などを通
39 じて行われている。

40 とくに合併JAでは、規模が大き
41 くなるだけではなく、業務が複雑化・専
42 門化・高度化し、組合員にとってJA
43 の運営状況が分かりにくくなるという
44 負の側面がある。

45 こうした状況に対して、一方では身
46 近な話題を提供できるような「支所だ
47 より」や「まんがダイジェスト版 新
48 協同組合とは」などを配布し、JA運
49 動の初歩的な理解やけい発をはかるこ
50 との重要性が理解されるようになり、
51 他方では協同組合の新しい統治方法^{ガバナンス}
52 として、①コンプライアンスにひっか
53 かるものを除いて、組合員に積極的に
54 公開する情報の「透明性」、②フォー
55 マルだけではなく、インフォーマルな機
56 会を数多く設けて組合員の声を集め、
57 それを運営に生かす組合員の「参加」、

58 ③役職員と組合員が一緒になって汗を
59 かく「協働」の重要性も理解されるよ
60 うになっている。

61 これらに加えて、次代の協同を担う
62 若者たちに対しては、その最も有効な
63 広報手段として、携帯サイトの活用が
64 認識されるようになってきた。従来か
65 らすすめられているホームページの有
66 効性も否定できないが、情報の広がり
67 やJ Aとのコミュニケーションをはか
68 るうえで、携帯サイトの活用がより有
69 効であることが認識されるようになって
70 ている。本格的な普及はこれからであ
71 るが、J Aなんすんなどの先進的なJ
72 Aでは、すでにその有効性が実証され
73 るようになっている。

74 協同組合運動は、人と人とのつなが
75 りや人と人とのコミュニケーションに
76 よって、そのよさが伝播されるところ
77 に大きな特徴があり、その特徴を活か
78 すためにも携帯サイトの活用を本格的
79 に検討しなければならない。

80 また、積極的な広報活動の展開には
81 広報専任部署の設置が不可欠とされる
82 が、その部署の役割は単に自らが発信
83 する広報の量と質を向上させるだけで
84 は完結しない。

85 この仕事を完結させるためには、広
86 報専任部署の職員だけではなく、J A
87 職員のすべてが広報担当者として活躍
88 できるように、広報能力を高めていく
89 ことが必要とされる。広報専任部署の
90 職員だけが走り回っているのではなく、

91 支所、事業所の職員も広報担当者とし
92 てホットな情報を収集、発信できるよ
93 うにしていかなければならない。

94 そのためには、支所・事業所職員を
95 対象とした広報活動研修会を定期的に
96 開催し、POP作成、デジタルカメラ
97 活用、記事作成のスキルアップをはか
98 るようにすることが求められる。

99 情報の共有なくして認識の共有はな
100 く、認識の共有なくして理念の共有は
101 ない。情報の共有はJA運動のすべて
102 の始まりである。 いしだまさあき
(石田正昭)

103

104

105 122行×17字

106 (9+1)×2=20行

107 122行-20行=102行

108